

入居企業紹介

その65

SIC-1 319

SICに入居されている企業をご紹介します。

Ronk ジャパン株式会社

”強さを磨き
デジタル無線をフィールドに活躍中!”



■代表プロフィール

Ronkジャパン株式会社
代表取締役 高山 建(たかやま けん)
1964年中国・西安出身、相模原市在住の45歳。
多忙を極める高山さんの趣味は、仕事。
会社経営に没頭する日々を過ごす。

■起業しようと思ったきっかけは?

上海の大学を卒業後、日本で言うJAXA(宇宙航空研究開発機構)のような機関に就職。その後、研修生として来日した大手電機メーカーで、日本のモノづくりを学んだ。

その後、転職した電機メーカーでは、中国市場の開拓など、日本企業の中国進出を後押しするような仕事を経験したことで、中国と日本の架け橋でのビジネスの可能性を感じ、2006年1月、Ronk上海、同年6月にRonkジャパン(株)を設立し事業を開始した。

■事業紹介

創業からこれまでの道のりは試行錯誤の連続であった。中国人エンジニアの日本国内企業への人材派遣、メカトロ機器や電子機器部品の受託開発などを手掛けてきたが、人材派遣を取り巻く環境変化、取引先からの突然の開発中止宣告などにより、事業は苦戦。

そこで、昨秋、決断した。日々の売上はなくなるが、それを我慢して”強みを伸ばそう!自社の強みを活かしたオリジナルな製品開発をしよう!”と決めた。

時代は、アナログ派からデジタルへの移り変わり目であり、デジタル無線技術を生かした製品開発に集中。同時に顧客開拓を開始した。

今秋苦勞の甲斐があって、開発したデジタル低遅延無線モジュールが、国内中堅音響企業で組み込みの採用が決まった。



※デジタル無線モジュール(2.4GHz低遅延ワイヤレスモジュール)

開発したモジュールは、デジタルワイヤレスの常識を破る遅延時間0.5msを実現し、遅延を感じないためにデジタル方式での違和感が抑えられている。煩わしい配線が不要になるために店舗などワイヤレススピーカーシステムの構築などのアプリケーションが考えられる。

■一番苦勞していることは?

この1年間、顧客から日本のモノづくりを大いに学び、鍛えられた。日本市場は厳しい。製品仕様を満たすだけでは不十分で、例えば操作感や筐体のデザインなど、日本ユーザーの細かな部分への配慮をどこまで対応すればよいかわからなくて大変な苦心をした。

また、仕様書・説明書などの書類整備も欠かせないために、その整備にもまたさらなる苦勞が待っていた。

なかでも一番大変であったのは、日本の顧客の要望を開発拠点である中国Ronk上海のエンジニアへ伝えること。「なぜ仕様を満たしているのに細かな事が必要なのか?」そう繰り返す現地エンジニアとの闘い。日本市場での製品提供を目指すRonkとしては、顧客要望を満たさない限り売れない。そのために、上海にいるエンジニアに日本のモノづくりについて理解を得ることに苦心した。

■これからの夢または目標は?

テレビが2011年アナログからデジタルへ移り変わるように、無線業界はこれからデジタル化へ変わっていくと考えている。そこには大きなビジネスチャンスが必ずあると信じている。

電波は国民の財産とも言われます。デジタル技術を使ってその財産を最大限社会貢献できる企業に育てたいと考えています。

そして、経済の発展には、今後も日本と中国の協力体制は必須であり、その一端を担うビジネスをしていくことが使命であると感じています。

【お問い合わせ先】

Ronk ジャパン株式会社 SIC-1 319
Tel.042-770-9858 Fax.042-770-9858
E-mail : takayama@ronk-sh.com



SICからのお知らせ

12月17日(木) 17:45~
19:30

SIC 忘年会 開催のご案内



会場：サン・エールさがみはら多目的室 B
 会費：1,000円/お1人様
 内容：ジャンボビンゴ大会、スーパーマジックショー、
 (予定) 新しく入居された企業のご紹介など
 食べ放題、飲み放題 (なくなるまで)
 差入れ大歓迎!!

お問い合わせ先：SIC-1 飯山 (内線 1100)

SICの四季



シダ植物：根、葉、茎の区別があり、孢子でふえる。花は咲かない。孢子が発芽し前葉体ができ、前葉体で受精してシダ植物となる。孢子は顕微鏡を使わないと見えないくらい小さく、孢子嚢(ほうしのう)というところで作られます。孢子嚢が葉先や、葉のふちにつくものはワラビなど、葉の裏につくものには、ペニシダ、シノシダなどがある。シダ植物は類似した種が多く、写真のシダは名前の特定ができませんでした。

石川の東海道 道中記 第13回

—平成21年6月28日(日) 草津宿～京都三条—

いよいよ最終日である。5時起床し、6時50分、今日のスタート地点に立つ。市街地を進み、浄光寺・建部神社を過ぎると、「唐橋を制するものは天下を制する」といわれた「瀬田の唐橋」で、擬宝珠(ぎぼし)と桁隠しが三大名橋の風情を出している。橋の上から見ると琵琶湖は朝靄がかかり蓬莱山であろう山頂が霞んでみえる。渡りきると京阪電車の唐橋前駅で、少し先の左手には唐風の特異な構えの家がある。後日、観光協会にお尋ねしたところ先代が漢文学者で「趣味でお建てになった」という話であった。JR石山駅を過ぎ、NECの工場を左手に進むと、膳所(ぜぜ)の城下で古い家並みが残り、2km程の道中に若宮八幡・篠津神社・膳所神社などがある。更に西進すると、木曾義仲と芭蕉翁の墓がある義仲寺に8:45到着。拝観時間は9時からであったが、係員が早めに開門して下さり拝観することが出来た。寺の創建は不詳であるが義仲の死後愛妾の巴御前が墓所近くに草庵を結び日々供養したことに始まったと伝えられる。芭蕉は伊賀市の出身であるが、この寺と湖南の人々を愛し、たびたび滞在し「骸は木曾塚に送るべし」との遺言でこの地に葬られたという。1kmほどで大津宿の中心に入り、滋賀県庁が見え、大津事件碑、本陣跡を過ぎると京阪京津線に沿い登り坂になる。

予想したよりも坂道がそれなりに厳しく、約2kで登りつめたところが、「これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬもあふ坂の関」と蝉丸が詠んだ逢坂の関である。常夜灯と碑が立ち、近くには物資の運搬を楽にするため軌道のように花崗岩に溝を刻んで大津～三条大橋間12km敷き詰めた「車石(くるまいし)」が並べてあり、先人の偉業に驚く。街道はここから下り始め追分を過ぎると旧三条通りとなり、山科からはいよいよ京都府内に入る。JR東海道線のガードをくぐると、天智天皇御陵を右手に見ながら坂を上る。気温は31℃をこえ猛烈に暑い。顔に塩が噴いている。35分ほどで蹴上(けあげ)を通過し、12:35分ついに三条大橋到着した。橋の袂で「完全踏破」の写真を撮って帰路についた。 総集編につづく



2009年11月

【今月の経営スケジュール(3月期決算の会社参考)】

経理：10月源泉税・地方税納付、給与計算・試算表作成
 税務：中間・予定申告

日	月	火	水	木	金	土
1	2 会議室11月分 予約受付開始	3 文化の日	4	5	6 さがみはら 未来塾	7 経営塾
8	9 *SIC-1 エレベーター点検	10 SIC 緑地帯 樹木の選定	11 SIC-2 ガラス清掃 職場リーダー養成塾	12 南西フォーラム EA21	13 さがみはら 未来塾	14
15	16	17	18	19 SIC-2 空気環境測定	20 さがみはら 未来塾	21 SIC-1 床面定期清掃 協創マッチング フォーラム
22	23 勤労感謝の日	24 SIC-2 自動ドア点検	25 職場リーダー養成塾 協創マッチング フォーラム	26	27 さがみはら 未来塾	28 経営塾
29	30	1	2	3	4	5

* エレベーター点検 SIC-1 10:00~11:00の間はご利用になれません。 お問い合わせは 生井 (内線 1116) まで

青山学院大学

社会情報学部
教授 飯島 泰裕 氏



-第1回(2回連続でご紹介してまいります)-

ソフトバンクモバイル株式会社様、ソフトバンクテレコム株式会社様(ともに東京都港区、社長:孫正義)と青山学院大学は、「iPhone™3G」(アップル社様)を通じて、モバイル・ネット社会やユビキタス・コンピューティングについて、共同で研究・教育を行っていく基本協定を2009年5月14日に締結いたしました。この協定に基づき、社会情報学部では、iPhone™3Gを全ての学生に配布して活用していくことになりました。



写真 基本協定の調印(左から宮内副社長、伊藤学長、魚住学部長)

社会情報学部は、文理の枠を超えた知識と基礎力を身につけ、社会や組織の問題を発見・解決できる人材育成を目指し2008年に創設され、「数理的素養」「コミュニケーション能力」「論理的思考」「情報の高度な活用」の4つの力をバランス良く身につけるカリキュラムとなっています。この一環として、学業とともに日常生活の中でも常に最新機能を持つモバイル端末を活用し、モバイル・ネット社会やユビキタス・コンピューティングを体感できる環境を提供することにしました。社会情報学

部は開設2年目のため530台程度の導入ですが、完成年次には関わる教職員を合わせて1000台規模の導入となります。iPhone™3Gの活用として、次のように考えています。

(1) iPhone™3G を大学標準のメールシステム等と連携し、授業資料や教材の配布、出席管理、ミニテスト、授業収録放送を行い、学習に活用します。

(2) 低学年の学生には「App Store」にある世界的に優れたアプリケーションを探し出し、体感し、新たなライフスタイルを提案して貰います。また、学習理解に有益なサイトやアプリケーションや、情報を交換する場を提供していきます。

(3) 高学年には、世界マーケットで流通するレベルの、モバイル・ネット・サイトやアプリケーションシステムを研究開発していきます。また、地域社会のモバイル・ネット情報化にも取り組んでいきます。

5月に配布して、約半年が経過しました。学生から大きな反響もありましたが、発表当初からWeb系の報道には大きく取り上げられ、5月15日には毎日新聞、産経新聞、日本経済新聞、日刊工業新聞に掲載され、MacFan(6月号)、MacPeople(7月号)などの雑誌にも紹介されました。また、ロイター通信に取り上げられ全米のテレビニュースや、ブラジルのテレビ放送のFantastico Globoでも放送されました。その後も、毎日新聞夕刊(7/17)、朝日新聞(9/14)等でも掲載されています。こうしたメディアへの露出が大きかったことから、様々な企業からの教材提供、授業協力、共同実験や研究の様々な申し出が来ている状況です。
かわらばん12月号(第2回)に続きます。

【お問い合わせ先】

共同研究について:

青山学院大学 研究支援ユニット 課長 杉野 郡二 ☎042-759-6056

社会情報学部・研究科について:

青山学院大学 学生支援ユニット 学務グループ

社会情報学部・研究科担当 ☎042-759-6072

<http://www.aoyama.ac.jp/college/ssi/index.html>

ご案内

「さがみはら未来塾(後期)」開催予定のご案内

講座No.	講座名	対象者	回数	日程
1	「企業人としての心構えを学ぶ」	20代の若手社員の方	全3回	12/11, 12/25, 1/8
2	「中堅社員における意識改革のすすめ」	30代~40代の中堅社員の方	全3回	1/15, 1/29, 2/12
3	「部下や後輩とのコミュニケーションのとり方」	部下や後輩がいる50代~60代の社員の方	全3回	1/15, 1/29, 2/12
4	「初歩から学ぶ新事業の作り方」	新事業・新分野進出を目指す企業の従業員の方	全3回	12/11, 12/25, 1/8
5	「プレゼンテーション能力の向上を図る」	従業員の方	全3回	1/22, 2/5, 2/19
6	「技術者の為の営業講座」	技術者等で営業機会の多い方	全3回	1/22, 2/5, 2/19

「さがみはら未来塾(後期)」開催予定のご案内です。

時間: 9:30~15:00(昼食・休憩を含む)

会場: さがみはら産業創造センター、サン・エールさがみはら

受講料: 9,450円(消費税、資料代、昼食を含む)

定員: 20名(先着順)

主催: さがみはら未来塾推進委員会、相模原市、(株)さがみはら産業創造センター

※募集開始は、平成21年11月9日(月)を予定しています。

※開催内容が変更となる場合があります。

※『さがみはら未来塾(後期)』受講により、中小企業緊急雇用安定助成金を受給できる場合があります。

詳しくは、担当までお問い合わせ下さい。担当: 上野(内線1114)・安藤(内線1113)

第17回職業能力開発研究発表講演会

メインテーマ

「ものづくり技能伝承は、人づくりから」

特別講演 日野自動車株式会社 日野工業高等学園学園長
田島 英幸氏(演題「モノづくり」は「人づくり」)

開催日: 11月26日(木)・27日(金)

会場: 職業能力開発総合大学校(相模原市)

お問い合わせ先:

職業能力開発研究発表講演会事務局

TEL:042-763-9046 近日中午にHPアップ予定

企業をサポートし隊!!

【シリーズ企画 企業支援の現場から・・・デザイナー編】

全
4
回

デザインというやり方。

- 第4回 -

キャラクター設計

こぞ企画

デザイナー 小崎 直利



私の好きなデザインの1つに「郵便マーク（〒）」があります。誰もが一目でわかり、容易に描くことができるマークだと思います。また、そのデザイン性云々を感じさせることなく私たちの日常に「郵便屋さん」として溶け込んでいる点も魅力の1つです。日々、真っ赤なポストや車やバイクなどがメッセージを受取り、運び、届けているのを見かけます。そんな姿を目にして「いろんな所からいろんな差出人が出した郵便物を、またいろんな受取人の所へと届けている…」と入り乱れた矢印を想像しては、その膨大さに途方に暮れてしまうことが私にはあります。そんな目の回るようなことを、この郵便マークがなんの変哲もない顔（わずか三画で描けてしまえる“顔”）でやってのけているところに何だか頼もしさすら感じてしまうのです。

この「郵便マーク（〒）」、由来を調べてみたところ明治20年に逓信省のイニシャルの「T」を採用することになっていたのが、後々「T」は国際郵便の取扱いでは郵便料金不足の印として万国共通で使用されていたため、急遽カタカナ「テ」からの説と、単純に「T」の上に一本足して「〒」としたという説の2つがあるようです。いずれにせよ今日まで120年以上もの年月を経てきているわけですから、私たちの生活に溶け込んだ存在であるのも頷けます。

“存在”のデザイン

郵便マークの例に限らず、私たちの周囲には一目で理解できるものや聞いただけでその形状・イメージが頭に浮かぶデザインがあります。わかりやすい例だとコココーラの瓶、ヤクルトの容器、ルイヴィトンのモノグラム、三菱のマーク、鉄道のカラーなどがそうでしょう。これらのように、特徴を印象付けることで存在を認知してもらうやり方を「ブランディング」と最近言われ始めています。

つまりそれは「キャラクター設計（“存在”のデザイン）」と私は解釈しています。小学校のクラスで服がオシャレでませた女子達と仲良く対等に話ができる花形くん（仮名）だけが“デザイン”ではなく、教室の窓際で水槽のカメを鼻をたらしながらぼけーっと見つめている山田くん（仮名）もクラスメイトとして欠かせない存在なのです。そんなキャラクターを育む対象は、企業、商品、活動など人格を持たないモノやコトです。郵便局のように長年同じ服装で、せっせと郵便物を運び届けていた“彼”に頼むことは周知であり、また見つけやすくもあります。デザインというやり方で“キャラクター”を育むお手伝いができればと思います。

今回で最終回となります。読んでいただいた方々、どうもありがとうございました。

チャレンジショップを担当の「飯山のいい店み～つけた!」と「山本のめし屋レポート」を隔月で掲載しています。

飯山のいい店み～つけた!

忘年会のご予約をお待ちしています!

天麩羅 小懐石料理

天麩羅小懐石料理「天陽」は、8月31日にオープンしました。

店主の渡辺さんは、料理職人歴20年以上の大ベテラン。

都内、神奈川を中心に天ぷら、日本料理の経験を積み、満を持しての自店開業となりました。お店のコンセプトは「大人のやすらぎ空間」。

ゆっくりくつろいで、親交を深めるもよし、大切なお客をおもてなしするもよし、落ち着いた空間がやさしく包み込んでくる、相模原市内でも数少ない「大人の店」。

自慢の天ぷらは、こだわりのゴマ油だけで丁寧に揚げている。

『美味しい香りと深い味が当店の自慢の天麩羅。』と熱く語る渡辺さん。

ゴマ油だけで揚げるのは相当熟練した技術が必要。さすがプロの料理人です。

また、ゴマ油には血液サラサラ効果もあるようですよ。

魚は市場からの直送、大根やいんげんは相模原産にこだわり、季節に合わせた素敵な料理を出してくれる。

お酒も日本酒・焼酎各種取り揃え、「きき酒師」の資格を持つ店主に選んで頂くと、

食事との相性もグットです。場所もJR相模原駅から徒歩2分と言うこと無し。

これからの忘年会シーズンに一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



■住所 相模原2-2-20山田ビル2F(横浜銀行相模原駅前支店の隣) ■Tel.042-707-4745

■営業時間 月～金 11:30-14:30・17:00-23:00 土 17:00-23:00 ■定休日:日曜日

編集後記

秋も深まってまいりました。紅葉を楽しみに山里へ行かれた方、ピカピカの新米を楽しんでいる方、芋掘りに汗を流した方と様々な秋を楽しまれていると思います。編集後記を書いている今日、北海道は初雪の予報が出ています。そして、SICでは、もう、忘年会のお知らせが出てまいりました。忙しさに謀殺されて(?)、あつと言う間の1ヶ月、1年ですが、ぼちぼち年末年始の準備開始です! 荻島

★ご意見・ご感想をお待ちしています。(株)さがみはら産業創造センター(SIC) 〒229-1131 相模原市西橋本5-4-21 電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077 ホームページ: <http://www.sic-sagamihara.jp> E-mail: koho@sic-sagamihara.jp